

令和 5 年 5 月 19 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02363

研究課題名（和文）日本におけるホスピタルアートの現状とコードに関する研究

研究課題名（英文）Research on Hospital Art and Code in Japan

研究代表者

一鍬田 徹（HITOKUWADA, TORU）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・教授

研究者番号：10263659

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：日本におけるホスピタルアートの現状を調査、整理すると共に、それらに求められる作品としてのコードを提示することを目的とした本研究は、ホスピタルアート全般の調査・整理を経て、先進的な取り組みを行なっている医療機関への調査及びアーティストの取り組み（特に作品制作）に焦点化し、研究を進めた。途中、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により調査活動が十分に進められなかったが、補助事業期間延長を経ながら、香川、福岡、茨城、千葉、愛知、富山等の医療機関の視察及び関係者へのインタビューや国際シンポジウムへの参加等を行うと共に、そこで得られた知見に基づく学会誌への投稿やウェブサイトによる情報公開を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究を始めた当初と比較して、日本におけるホスピタルアートは確実に増加している。それは、世界に先駆けて超高齢化社会を迎え、多くの人が医療機関において人生の終末期を迎える現代日本において、病院におけるアートのあり方や、アートが社会に果たす役割への期待が、これまで以上に高まっていることの表れであると考えられる。このような背景を踏まえ、多くの研究者も様々な視点からホスピタルアートに関わる研究・発表を行うようになったが、特に本研究では、研究者自身がアーティスト（彫刻家）として、理論と実践を往還しながら、立体・彫刻的な視点をもって、ホスピタルアートに対する考察、提言、情報公開等を行ったことに独自性がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to investigate and organize the current status of hospital arts as public art in Japan and suggest codes, rules, criteria to categorize art works as a requirement of this project. We have conducted rigorous investigations focused on medical institutions that have operated with these pioneering efforts and artists' productions, through exploring to examining the established hospital arts. In the middle of the research, we have experienced the global disruption of the Coronavirus pandemic starting in 2019, and had some difficulties in proceeding with sufficient surveillance activities. Thanks to the term extension of our funded project, this study performed on-site inspections of medical institutions in Kagawa, Aichi, Toyama Prefectures and others. Interviews were conducted with relevant participants and we participated in international symposiums. Findings obtained by these activities were published in academic journals and were released on websites.

研究分野：彫刻

キーワード：ホスピタルアート

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初、既にホスピタルアートに関する学会の設立や、関連書籍の出版等もあったものの、日本社会におけるホスピタルアートの基本的理解や認知も含め、十分な状況とは言えないと思われた。

具体的な背景としては、2004年に特定非営利活動法人として設立されたアーツプロジェクトや、2006年に設立されたアートミーツケア学会、2009年の臨床美術学会の設立等があり、それらの中で研究や報告がなされ、またホスピタルアートに関連する書籍の出版や公共放送による番組制作（2011年）等があった。また、実際の取り組みとしても、香川県の四国こどもとおとなの医療センターをはじめとした様々な医療機関での事例があったり、大学のような研究機関が病院と連携して取り組んだ事例（九州大学病院小児医療センター（2006年）、徳島大学病院・ホスピタルギャラリーbe（2009年）、筑波大学附属病院及び筑波メディカルセンター、金沢美術工芸大学と金沢市立病院のホスピタリティアート・プロジェクト、女子美術大学のヒーリング・アートプロジェクト、京都造形芸術大学と京都府立医科大学附属病院のHAPii+, 山梨大学医学部附属病院小児病棟のミュージアム活動、大阪市立大学附属病院、和歌山県立医科大学附属病院、名古屋市立大学病院等）があったりしたが、このような積極的な取り組みが見られる医療機関と、そうでないところの差があり、またホスピタルアートの効果を立証するエビデンスの妥当性に関する課題等もあって、一般的にホスピタルアートが多くの人に十分に理解・認知されている状況にあるとは言えないと思われた。

しかし、高齢化社会を迎える現代日本にとって、医療機関におけるアートのあり方に対する関心は年を追うごとに高まってきていると思われ、各地で、様々な視点から行われているホスピタルアートに関する実践や研究を整理した上で、その可能性と課題について改めて検討する必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、日本におけるホスピタルアートの現状を調査、整理すると共に、それらを通してホスピタルアートに求められる作品としてのコード（通底する規則や条件等、以下略）を提示することを目的としていた。研究開始当初、特に日本においては、まだホスピタルアート研究が未消化あるいは混沌とした状況であると思われたので、本研究において、先進的な取り組みを行っている病院や大学、その他研究機関の文献調査及び現地でのヒアリング等を通して、その実態を明らかにすると共に、その作品に共通するコードを明らかにすることで、ホスピタルアートのより良いあり方、社会に貢献できるアートの方法論等を提案したいと考えた。

3. 研究の方法

当初、3年計画であった本研究は、1年目（2017年）に関連書籍、先行研究の調査と論点の整理を行うこととした。特にホスピタルアートは、患者自身が行う活動からアーティストが取り組む活動まで、多岐に渡っているので、本研究においては特にアーティストの取り組み（特に作品制作）に焦点化し、文献資料等による調査を開始することとした。また2年目（2018年）には、国内の医療機関におけるホスピタルアートの実際を調査・整理して、先行研究により先進的な取り組みをおこなっている医療機関に実際に赴き、作品設置の経緯や意図効果等について調査すると共に、担当者へのインタビューも含めて、その実態を明らかにする計画とした。更に、最終年度（2019年）には、そういった実態調査の結果から、アーティストが考えるホスピタルア

トに共通するコードを導出すると共に、病院関係者（医師、患者ほか）がその作品をどのように受容しているのかを明らかにし、最終的に病院が求めているアートはどのようなものか、ホスピタルアートとしてのコードを提示したいと考えていた。

しかし、本研究は、特にその研究対象が主に医療機関であったことから、2019年からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響を強く受け、予定していた医療機関への訪問が十分に行えなかったこと等もあり、最終的にはのべ3度の期間延長を経て、研究を進めることとなった。

4. 研究成果

(1) 時系列に基づく成果内容

第1段階として行った、関連書籍、先行研究の調査を元にした論点の整理及び予備調査について、研究対象としているホスピタルアートが、いわゆる純粋芸術(アート)だけではないデザイン・建築等の多様な要素を含むことが明らかになってきた。予想上に状況は混沌としており、問題点の整理や抽出に時間を要したため、まずはアーティストの取り組み(作品制作)に焦点化し、特にホスピタルアートに積極的に取り組んでいるアーティストとコンタクトを取り、その意図や意義、実践における振り返りなどを調査することとした。中でも、触覚を通じた鑑賞活動に積極的な彫刻家や、実際に病院での展示を行っていた工芸作家等との交流を通して、情報収集や意見交換を行った。

2018年度(研究2年目)には、国立国会図書館等で文献調査を行うと共に、論点の整理を進めながら、研究対象としていた大学病院や各医療機関等の実地調査を行なった。2018年12月には、日本の中でも先進的な取り組みを行っていることで著名な四国こどもとおとなの医療センターを訪れ、病院の設立当初から関わっているアートディレクター(森合音氏)へのインタビュー調査を行うと共に、センター内に設置された様々なアート作品を視察した。またこの病院にも作品設置されていたアーティスト(イケムラレイコ氏)の展覧会(2019年1月~4月@国立新美術館)の鑑賞及び対談企画(イケムラレイコ氏×水沢勉氏)の聴講等を通して、考察を深めた。その他、九州大学病院内に設置されている作品『神の手』(カール・ミレス, 1875-1955, 米国, 彫刻家)をはじめとした彫刻、立体造形、壁画等の実見や、パブリックアートとしてのホスピタルアートの観点から、多くの銅像制作等を手掛けている彫刻家(神戸峰男氏)の講演会に参加する等した。こうした様々な見地から情報収集と考察を進めると共に、作品のコードに関わる、データベースとしての分類表の作成を進めた。

3年目である2019年度は、実地調査として、筑波大学附属病院、千葉東病院等の視察のほか、関連するアーティスト(クリスチャン・ボルタンスキー氏)の展覧会視察及び、ボルタンスキー研究の第一人者である湯沢英彦氏による講演会に参加する等、資料収集を行った。また2019年10月に東京国立近代美術館にて開催された国際シンポジウム「英国の先進事例に学ぶヘルスケアアートとそのマネジメント」(なごやヘルスケア・アートマネジメント推進プロジェクト主催)に参加する等、海外の先進的な知見に触れると共に、その機会を利用して研究者との情報交換を行う等した。同時に、国立国会図書館等における文献調査も継続的に行った。しかし、2020年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、それ以降の、予定していた医療機関への訪問がままならず、また学内業務ほかにより、当初の計画通りには研究が進まなかったため、日本学術振興会に補助事業期間延長承認申請を提出し、承認された。

4年目となる2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を更に強く受けたため、予定していた実地調査に代わり、これまでの調査内容に基づく論文作成を行った。具体的には、大学美術教育学会の学会誌「美術教育学研究」に、本研究に係るテーマの論文「病院における彫刻・立体造形作品の可能性と課題に関する研究」を投稿し、査読を経て、掲載された(2021年3月

発行)。

5年目となる2021年度は、これまでの論文作成やインターネットを含む調査を踏まえて、ホスピタルアートに関する情報をまとめたホームページ^{※1}を立ち上げ、情報発信を行った。ホームページの中では、ホスピタルアートに関する研究者自身の論文・作品や、実地調査の報告、関連資料、大学での学生授業作品に係る情報を掲載・発信し、現在も更新を重ねている。また、研究者自身が過去に制作したホスピタルアートを元に、別の試作品^{※2}を制作・発表する等、より具体的な提案を行なった。

6年目となる2022年度は、引き続き、ホームページにおいて、随時、情報の更新を行った。また、新型コロナウイルス感染症が、多少、落ち着きを見せるようになったことから、医療機関の視察を再開し、東海地区(名古屋市立大学医学部附属東部医療センターほか)や、北陸地区(富山県リハビリテーション病院・子ども支援センターほか)への実地調査を行った。視察にあたっては、事前に関係するアーティスト(彫刻家・高野真悟氏ほか)へのコンタクト及び各医療機関の担当者へのアポイントメントを取った上で、施設見学及び関係者への聞き取りを実施し、その結果や内容についてはホームページにも掲載した^{※3}。また研究成果の一つとして、論文「教員養成における彫刻・立体造形分野の実践的研究 -パブリックアートに関する題材及び素材に着目して-」(広島大学大学院人間社会科学研究科附属教育実践総合センター『学校教育実践学研究代29巻』)を執筆(共著)、発表した。

(注)

※1 HP of HITOKUWADA TORU OFFICIAL WEBSITE(ホスピタルアート) <https://home.hiroshima-u.ac.jp/thitoku/index.html> (図1参照)

※2 『Four Seasons Tree (Ver.2)』h.40 x w.35 x d.30cm, 石膏, 第98回白作品展(国立新美術館)(2022年3月), 『Four Seasons Tree (Ver.2.1)』h.60 x w.50 x d.50cm, 石膏, 第51回日展展(東京都美術館)(2022年4月)等 (図2参照)

※3 (図3参照)



図1 ホームページの具体(トップページ(部分))



図2 ホスピタルアートに係る作品(HP(部分))



図3 実地調査結果の具体(HP(部分))

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究は、研究者自身の実作者（アーティスト）としての実践と、研究者としての理論的な考察といった、理論と実践の往還が一つの特徴であり、その結果として2019年、全国の教育系国立大学が機関加盟している大学美術教育学会に投稿し、掲載された論文「病院における彫刻・立体造形作品の可能性と課題に関する研究」は、本研究の成果の一部として、一定の評価は得られたものと考えている。

また同学会で発表した論文「ホスピタルアートの実践と評価」(2017)は、村上史明(筑波大学)、日浅健太(筑波大学附属病院リハビリテーション部 作業療法士)、上村忠正(湖南病院リハビリテーション部 理学療法士)各氏の共著による[研究ノート]「生活習慣病予防教材の開発に関わる芸術と医療の連携についての考察」(アートミーツケア vop. 10, pp. 126-142, 2019)に引用される等、研究者に対するインパクトとしても、一定程度の理解や周知は図れたものとする。

2023年3月に発表した論文「教員養成における彫刻・立体造形分野の実践的研究 -パブリックアートに関する題材及び素材に着目して-」(共著、広島大学大学院人間社会科学研究科附属教育実践総合センター)は、美術を学ぶ学生に対して、ホスピタルアートへの理解を促す実践と考察について論述したもので、教師を目指している受講者たちが、将来、学校現場等で更に若い世代への理解や普及につなげてくれるものと期待している。

また2021年度に立ち上げたホームページは、調査等によって得られた知見を広く社会に対して公開しているもので、今後も、継続的に情報発信していく予定である。

更に2013年に研究者本人が制作(デザイン)した広島大学病院のモニュメント『Four Seasons Tree』について、本研究が開始された2017年以降も、たびたび広島大学の広報誌で取り上げられる等(図4, 5, 6, 7)、ホスピタルアートの社会的評価や普及の一助になっているものとする。



図4 広島大学海外向け広報誌『UPDATE』(表紙). vol.17・SUMMER 2022

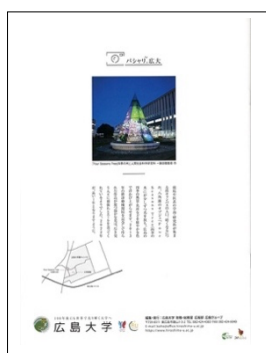


図5 広島大学広報誌『HU-plus』(裏表紙). vol.17, 2022-01



図6 広島大学広報誌『HU-plus』(記事: Art 人々). vol.11, 2020-01

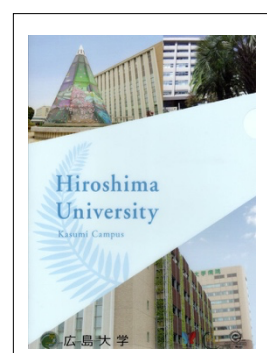


図7 広島大学公式クリアファイル(2021年)

(3) 今後の展望

本研究を通して、ホスピタルアートのコードの一つに〈地域性〉が挙げられると考えているが、現時点で、これに関する十分な検証や論述、及び他のコードについての検討がなされたとはいえない状況にあり、今後の研究継続が必要である。その点、2023年度からも基盤研究(C)において「ホスピタルアートとしての彫刻・立体造形作品の可能性と課題に関する研究」(5年間)が採択されたため、本研究での課題解決も含め、より具体的かつ実効性のあるホスピタルアートの可能性を探りたい。一般的に、医療機関と親和性が高いのは絵画分野であると考えられるが、平面作品にはない、彫刻・立体造形作品の実在感や触知性等の特長を生かしたホスピタルアートの在り方を示したい。これまででもそうであったように、研究者自身のアーティスト(実作者)としての経験を踏まえつつ、研究者の視点、制作者の視点の双方に立脚した広い視野で、その可能性や課題について、今後も調査・考察を継続し、提言を行いたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 一 楸田 徹	4. 巻 53
2. 論文標題 病院における彫刻・立体造形作品の可能性と課題に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 201,208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19008/uaesj.53.201	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 一 楸田 徹, 井戸川 豊	4. 巻 29
2. 論文標題 教員養成における彫刻・立体造形分野の実践的研究 - パブリックアートに関する題材及び素材に着目して -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究（ISSN 1341-111X）	6. 最初と最後の頁 59,66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ウェブサイト HP of HITOKUWADA TORU OFFICIAL WEBSITE ホスピタルアート https://home.hiroshima-u.ac.jp/thitoku/index.html 作品発表 『Four Seasons Tree (Ver.2)』 h.40×w.35×d.30cm, 石膏, 第98回白日展（国立新美術館）（2022年3月） 作品発表 『Four Seasons Tree (Ver.2.1)』 h.60×w.50×d.50cm, 石膏, 第51回白日展（東京都美術館）（2022年4月）

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------